鞠智城跡内に残存する地名

鞠智城・温故創生館　岡本　真也

1. はじめに

地名は、その由来や名付けられた時代等の検証が必要であるが、重要な歴史遺産である。鞠智城跡周辺の地名、大字、小字、一部の通称地名については、既刊の報告書等により公表されている。

今回、地元の方々及び職員等から聞き取り調査を行った結果を基に鞠智城跡周辺に残る地名（主に通称地名）について、紹介するものである。聞取り調査は、令和元年（2019 年）5月～令和4年（2022 年）2月に適宜実施した。

2. 鞠智城周辺の大字（図1参照）

ヨナバル（米原）、キノ（木野）、【マツオ（松尾）、ヒエガタ（稗方）等】

3. 鞠智城周辺の小字（図1参照）

【大字米原 地内】

ウエバル（上原）、ヤシキ（屋敷）、シタノダ（シタノダ）、ヤグラ（矢倉）、トビワタル（飛渡）、チョウジャバル（長者原）、ミツエダ（三枝）、ウマワタシ（馬渡）、トウノモト（塔ノ本）、ハチクボ（八久保）、イワヅメ（岩詰）、ナガウラ（長浦）、ツツミノシタ（堤の下）、ワカミヤ（若宮）、スナサカ（砂坂）、ワクドイシ（蛙石）、ササオ（笹尾）、マサコノマエ？（政子ノ前）

【大字木野 地内】

ワクド（蛙石）、チノミネ？（地の峰）、シオイガワ（塩井川）、タテノ（立野）、コガノツジ（古閑ノ辻）、カミナガタ（上永田）、カミナソギ？（上七十帰）、チョウジャヤマ（長者山）、イケノオ（池ノ尾）、ドウノシタ（堂ノ下）、フカサコ（深迫）、ヤマダ（山田）、ホリキリ（堀切）、オオホリキリ（大堀切）、ヒノクチ
（樋ノ口）

4. 聞取り調査により判明した地名（主に通称地名）（図2参照）

※____は、話者の解説。

エダムラ、ホンムラ、ヤグラ（矢倉）、ノダ（野田）、ナカシマヤマ（中島山）、ハッセンバ（発船場）【カッセンバ（合戦場）】、ツジノヤマ（辻の山）、クスノキベラ（楠箆）、サブロウガサカ（三郎ケ坂）、ナゴラ、カメンコ・カメノコウ（亀甲）、テジメ（手締め）、ツツミノシタ（堤の下）、ロクロウマル（六郎丸）：乙丸と対峙、ショウゲンドン（少監どん）：ショウゲンという位を持つ人の墓、オトマル（乙丸）：六郎丸と対峙、ナカグリ（中庫裏）、ナカオノソノ（中尾の園）、マツリヤシキ（紀屋敷）、テラノシタ（寺の下）、イワクラサン（岩倉さん）：米原の中に7つある神様の1つ、トビワタル（飛渡）、シャカンドン・サガンドン（佐官どん）、ソウジョウヤ（惣庄屋）、セセナキ（粼溝）：田の水とせせらぎの両方の意味、タヌキノアナ（狸の穴）、ワクドイシ（蛙石）、シエゴ（●衣越）：衣を着た坊さんが越えた場所、ムカエノヤマ（迎の山）、ダゴサマシトウゲ（峠）、ダゴサマシザカ（坂）、ダイモン・ジャーモン（大門）、ヨコバタケ（横畑）、シタバル（下原）、ウエバル（上原）、キヤマヤシキ（木山屋敷）、ウエタケ（上嶽）、ロクジゾウ（六地蔵）、タツホゲ（竜ほげ）、イシワリザコ（石割迫）、ホンザコ、ドウ（堂）、マトイシ（的石）、ゴジヤマ、ユビノシタ、オユビ、ホカメ、ムカエ、ホンムラ、カミ（上）、ナカ（中）、シモ（下）

5. おわりに

聞き取り調査を行った地名の中には小字も含まれるが、その多くは通称地名である。地名の由来や名付けられた時代等については、今後検証しなければならない課題であるが、池の尾門跡の北西側にある「ダイモン（ジャーモン）」、初田川の傍にある「ハッセンバ」など非常に興味深い地名が残っている。今回は、地名の由来や検証までには至れなかったが、今後、このデータを基に鞠智城跡周辺の歴史的検証が更に深まることを願っている。

最後に聞取り調査に協力していただいた以下の方々に感謝いたします。
米原地区：萩尾浩吉氏（昭和 26 年 8 月 23 日生）、泉昭一氏（昭和 4 年 2 月 21 日生）、中原琴路氏（昭和 8 年 12 月 9 日生）、堀切地区：宮本清英氏（大正 11 年 2 月 18 日生）、中原定蔵氏（昭和 4 年 7 月 22 日生）、鞠智城説明ボランティア会長：片山憲政氏（昭和 18 年 10 月 24 日生）、熊本県立装飾古墳館副館長：上村修治氏（昭和 40 年 10 月 27 日生）【順不同】

図1　鞠智城周辺の大字・小字界図

図2　聞取り調査の地名図